

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	日本文学論	
科目基礎情報							
科目番号		0090		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生産デザイン工学科 (物質化学コース)		対象学年	4		
開設期		前期・後期		週時間数	4		
教科書/教材							
担当教員		木本 拓哉					
到達目標							
1、日本語・日本文学について積極的に関心を持つことができる。 2、必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめることができる。 3、相手の意見を理解・要約し、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。 4、社会で使用される言葉を広く習得し、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		日本語・日本文学について積極的に関心を持ち、読書習慣を持つ。		日本語・日本文学について関心を持つことができる。		日本語・日本文学について関心を持つことができない。	
評価項目2		必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめ、要点を押さえた資料作成ができる。		必要な情報を収集・整理し、的確に文章にまとめることができる。		必要な情報を収集・整理ができず、文章にまとめることができない。	
評価項目3		相手の意見を理解・要約し、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。		相手の意見を理解・要約し、それに対する自らの考えを構築できる。		相手の意見を理解ができず、それに対する自らの考えを構築できない。	
評価項目4		社会で使用される言葉を広く習得し、それらを実践する社会的コミュニケーションの場で相手と意思疎通ができる。		社会で使用される言葉を習得し、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。		社会で使用される言葉を習得できず、それらを適切に用いることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		実践的技術者に必要な言語コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。授業では、日本語・日本語文学について学び、関心を高め、資料を調査し、文章でまとめ、口頭発表を行うなどして、文章表現能力・プレゼンテーション能力を養う。					
授業の進め方・方法		日本語文学の作品鑑賞を通じて抽出された課題や疑問点について、資料を調査し、文章でまとめ、口頭発表を行う。受講者は全員テキストを読み、発表内容・態度について意見・感想を述べる。					
注意点		配布するプリント類を整理すること。文献調査を丁寧にすること。他の人の発表に積極的に関わり意見交換を行うこと。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3		
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3		
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3		
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3		
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3		
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3		
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3		
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3		
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3		
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3		
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3		
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3		
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3		
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3		
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3						
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	10	0	10	0	100
基礎的能力	50	30	10	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0